

洛西地域における 公共交通の現況・課題

令和 5 年 3 月 6 日
第 2 回京都市洛西地域公共交通会議

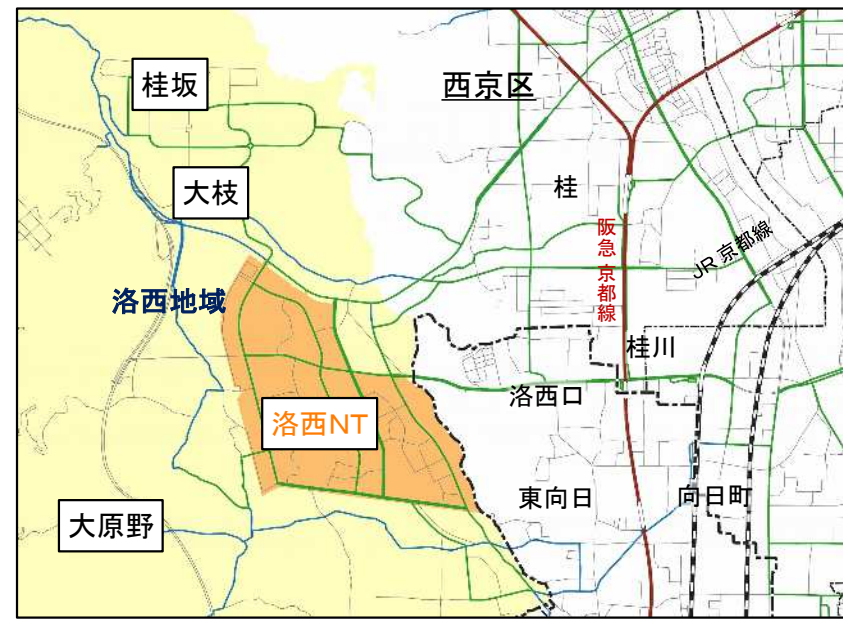
- 路線バス4者が、住宅地から鉄道駅へのアクセスを中心に、地域内をきめ細かに運行。
- 洛西地域は人口減少と高齢化が急速に進行し、バス利用者が減少。持続可能な交通体系（路線、ダイヤ、運賃等）について、効率性と利便性の両面から検討、協議を行っている。

◆ 地域の特徴

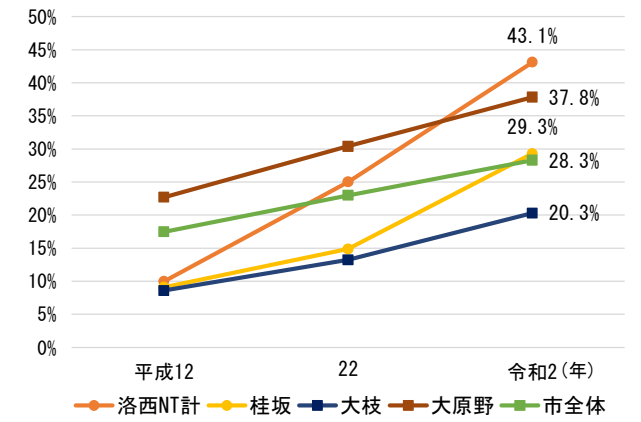
- 洛西ニュータウンや桂坂など、30～40年以上前に開発された住宅地が中心の地域。
- 洛西地域の人口は約5.0万人で減少傾向。特に、洛西ニュータウンでは、高齢化率が20年間で10%から43%へと急速に上昇(国勢調査)。
- バス事業者4者(京都市交通局、京阪京都交通、ヤサカバス、阪急バス)が運行。
- 通勤に自家用車を利用している人の割合は、洛西ニュータウンでは3割程度、桂坂や大原野では4割以上と高い(国勢調査)。

◆ 公共交通に関するこれまでの取組

- 平成15年の阪急洛西口駅、平成20年のJR桂川駅の開業に伴い、地域と各新駅とを結ぶバス路線が整備される。
- 平成20年に「洛西地域公共交通利便性向上検討ワーキンググループ(洛西WG)」を設置し、バス・鉄道事業者間の連携により利便性向上を図る取組を実施。
- 平成26年、福西学区が要望した桂川駅への市バス路線が新設。以降も継続して地域として利用促進活動を行い、利用者が増加。増便等が実現。
- 令和4年7月、洛西WGを「京都市洛西地域公共交通会議」に移行。



<各地域の高齢化率の推移>



<現況と課題>

- バス事業者4者により、洛西ニュータウン等の住宅地を中心に、鉄道駅に接続する路線バスが多く運行されている。
- ニュータウン等を中心に、洛西地域の大部分では市平均を上回る速さで高齢化が進行し、バス路線に対するニーズに変化が生じている。
- 利用者が減少する中、効率的で持続可能な交通体系（バス路線・ダイヤ）とともに、ダイヤ・運賃制度等も含めた利便性向上策について検討、協議を行う。

◆まちづくりの方向性（洛西ニュータウン）

○「京都市都市計画マスタープラン」（令和3年9月）

【主な地域の将来像と暮らしのイメージ ～洛西バスターミナル周辺（抜粋）～】

緑豊かでゆとりある生活空間があらゆる世代に再評価され、**生活利便機能や交通結節機能を核とした暮らしを支える多様な機能が充実し、新たなライフスタイルに対応した居住環境が形成されるなど、ニュータウン全体の再生が進展するとともに、市立芸術大学移転後の敷地では、本市の都市的な課題の解決や地域のニーズなどを踏まえた機能が充実している。**

○「京都市住宅マスタープラン」（令和3年度～令和12年度）

【方向性1】 居住の促進～持続可能な都市の構築につながる住宅政策～

<将来像3> 将来にわたり住み続けることができるよう、すまい・住環境が適切に維持・改善されている

（施策の方向性）ニュータウン等住宅地の再生：「住む」「働く」「子育て」「楽しむ」を実現できるニュータウンの再生・活性化

- ・ 多様な住民（留学生等含む）やライフスタイル、住替えに対応した様々な規模・形態の住宅の供給と交流の促進
- ・ 商業機能や働く場等、多様な機能の追加・充実と新しい土地利用の在り方の検討
- ・ **住み続けられる住環境の維持・向上に関する住民主体の取組への支援（交通や買い物利便性の向上等）**

○「第1回洛西ニュータウンまちづくりネットワーク会議（令和3年12月）」

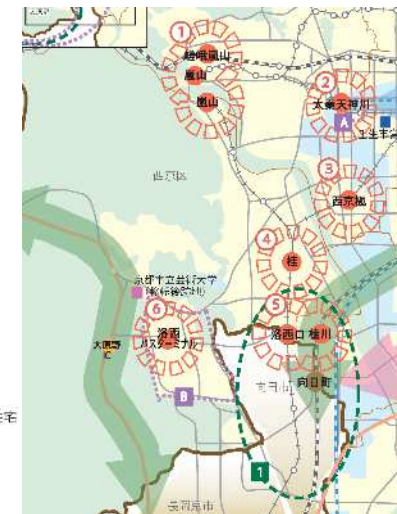
【新たな社会情勢なども踏まえて、市が中心となって進める取組】

- ・ 若年世帯・子育て世帯のニーズに合った居住環境の検討
- ・ 新たな職住近接を実現する働く場の創出
- ・ 地域の核となるタウンセンター、サブセンターの再生・活性化
- ・ **ニュータウン内外のアクセス性を高める交通利便性の更なる向上**



（洛西バスターミナル）

若年世帯・子育て世帯をはじめとした居住促進や、住み続けられる住環境の維持・改善とともに、暮らしを支える社会基盤として**「公共交通の利便性向上」**がまちづくりの方向性に位置付けられている。



出典：京都市都市計画マスタープラン（令和3年9月）

◆洛西地域のバス交通の現状

- ・洛西地域のバス交通は、バス事業者4社局（京都市バス、京阪京都交通、ヤサカバス、阪急バス）が担っている。
- ・地域内に鉄道駅がないことから、主に住宅地（洛西ニュータウン／桂坂地域）と、最寄りの鉄道駅（阪急桂駅・洛西口駅／JR桂川駅等）までのアクセスを中心に、路線・運行頻度とも充実したバス交通網が形成されてきた。

◆これまでの取組

これまでから、地域内の交通事業者（バス事業者4社、鉄道事業者2社）及び京都市（都市計画局歩くまち京都推進室・西京区役所洛西支所）で「洛西地域公共交通利便性向上検討ワーキンググループ」（以下、「洛西WG」という）を立ち上げ、洛西地域で運行するバス、鉄道事業者の連携により、公共交通の利用促進・利便性向上に取り組んできた。

令和4年7月、洛西WGを「京都市洛西地域公共交通会議」に移行。

（取組事例）共通案内板、鉄道との乗継利便が向上するダイヤの設定

バス停留所施設の改善、JR桂川駅バス総合案内所の設置…等

特色 バス事業者4者、鉄道事業者2者の連携により利便性向上が図られてきた。

<市バス西系統の営業係数と旅客数>

◆地域の移動ニーズの変容・交通事業者の経営環境

- ・人口減少と少子高齢化⇒通勤通学の利用者減少、昼間時間帯における地域内移動の増
- ・地域内を運行する交通事業者は、人口減少とコロナ禍の影響による利用減少により、いずれも厳しい経営環境
（市バスにおいては、洛西地域内を運行する系統は全て赤字）
- ・鉄道駅（JR桂川駅、阪急洛西口駅）、大型商業施設の開業等により、移動ニーズの多様化



系統	運行区間	R3		R1	
		営業係数	旅客数 (一日平均)	営業係数	旅客数 (一日平均)
西1	洛西B T ~ 桂駅西口	277	584	236	680
西2	洛西B T ~ 桂駅西口	195	3,114	163	3,739
西3	洛西B T ~ 桂駅西口	308	836	235	1,105
西4	洛西B T ~ JR桂川駅前	205	1,301	140	1,513
西5	桂坂中央 ~ 桂駅西口	256	1,273	236	1,381
西6	桂坂中央 ~ 桂駅西口	191	1,091	193	1,086
西8	洛西B T ~ 桂駅西口	196	1,261	187	1,677

※営業係数：100円の収入を得るためにかかる費用。
100未満なら黒字、100を超えれば赤字であることを表している。

課題と今後の方向性

バス事業者4者が地域内を運行しているという特性を活かし、**事業者連携等による利便性向上**を図りながら、将来にわたって洛西地域の生活交通が維持確保できるよう、**効率的で持続可能な交通体系**を検討し、**まちの活性化**につなげていく。

◆参考資料

- （参考1）洛西地域を運行するバス路線と運行回数
- （参考2）洛西地域における人口の推移等
- （参考3）洛西地域における市バスの運行と利用状況
- （参考4）各バス事業者の運賃制度

今後の検討課題について（ご意見をいただきたいポイント）

（今後の方向性：第1回会議の議論を踏まえて）

まちづくりとの連携・事業者連携を深めながら

①利便性向上 ②効率的で持続可能な交通体系の構築 の両面を中長期的に検討・実施

◆利便性向上に向けて（利用者としての観点）

- ・ 路線・ダイヤ面
- ・ 民営バス敬老乗車証の適用地域拡大を踏まえて
- ・ その他の運賃制度面（シームレス化：どのバスでも乗れる）
- ・ 地域としての観点（今住んでいる人、これから住む人）・・・等

◆持続可能性に向けて（交通事業者としての観点）

- ・ 需要と供給のバランス、バス事業者間の重複等
- ・ 事業者連携による工夫・・・等